

旬なスポーツ情報お届けします！

こまスポガイド

保護者の声



運動を通して学年や性別をこえて声を掛け合ったり、笑いあったりしているのを見て、やっぱりスポーツは凄いなと思いました。コロナ禍で、色々なことが自粛や中止になっていますが、子ども達には、こういう仲間との関わりから学ぶこともたくさんあると思うので、もっと機会をつくってあげられたらと感じました。



▲上手くボールを運べるかな？



▲真剣な眼差しで話を聞いています。

あそび運動教室



現在、コロナ禍において

外出の自粛や運動施設の利用時間短縮により、子ども達の運動する機会が失われています。中でも幼児期・児童期には運動神経の発達が著しく見られるため、運動不足は深刻な問題です。

そこで、子ども達が楽しみながら積極的に体を動かせるアクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）を活用し、体力低下の改善を目的としてあそび運動教室を開催しました。

アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）とは、日本スポーツ協会が開発した、子どもの発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムです。

今回、ACPの開発に携わられ、全国各地でその普及活動に努められている心理カウンセラーの吉田繁敬先生をお招きして、24名の小学4年生～6年生にご参加いただきました。



小牧警察署通信

みんなでつくろう！安心安全のまち



小牧警察署 (☎ 72-0110)

みんなの思い

明るい社会

こまき山ポリス



その先の 危険を教える ハイビーム
～夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗車中の交通事故をなくそう～

9月21日から30日までの10日間 秋の全国交通安全運動が実施!

秋の日はつるべ落としと言われるように、日没時刻が日増しに早くなることから、運転者にとっては歩行者や自転車の動きが見えにくくなります。

さらに、夕暮れ時から夜間にかけて交通量が多いこともあり、歩行者や自転車が交通事故にあう危険性が高まります。

夜間における「ハイビーム」の活用

- 夜間における交通死亡事故など重大な事故の発生は後を絶ちません。ドライバーの視認性を向上させ交通事故を防止するために、対向車や先行車がない場合は前照灯を上向き（ハイビーム）にして適切に活用しましょう。
- 前照灯は、交通量の多い道路を通行しているときを除き、上向きにして、歩行者などを少しでも早く発見するようにしましょう。
※ただし、対向車と行き交うときや、他の車の直後を通行しているときは、前照灯を減光するか下向きに切り替えなければなりません。
- 交通量の多い道路などでは、前照灯を下向きに切り替えて運転しましょう。対向車のライトがまぶしいときは、視点をやや左前方に移して目がくらまないようにしましょう。
- 見通しの悪い交差点やカーブなどの手前では、前照灯を上向きにするか点滅させて、ほかの車や歩行者に交差点への接近を知らせましょう。

歩行者の交通事故防止

- 運転者の方は、次のことに注意しましょう。
☆白い菱形の標示があったら、アクセルを緩めて、前方の横断歩道に渡ろうとしている歩行者がいなかををよく確認しましょう。
☆横断歩道を渡っている・渡ろうとしている歩行者がいたら、必ず止まりましょう。
- 歩行者の方は、次のことに注意しましょう。
☆道路横断時は、左右をよく見て、横断歩道や信号のある交差点を渡りましょう。
☆夜間、高齢者の方が道路を横断中に左から来る車にはねられる事故が多発しています。道路を横断する前・横断中も安全を確認しながら渡りましょう。
☆高齢者の方は、歩行速度や身体機能の低下を自覚しましょう。
☆明るい目立つ色の衣服を着用したり、反射材を活用しましょう。
- 横断歩道の日
毎月11日は「横断歩道の日」です。横断歩道での歩行者優先と、道路を渡る際の横断歩道の利用を徹底しましょう。